

Arcserve® Backup for Windows

Enterprise Module Guide

r17

arcserve®

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント（以下「本書」）はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品（複数の場合あり）のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、ARCserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2016 Arcserve（その関連会社および子会社を含む）。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication/High Availability

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

<https://www.arcserve.com/support>

Arcserve サポートの利点

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有している情報ライブラリと同じものに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース (KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、実地試験済みのソリューションを見つけることができます。
- ライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポートチケットを開くことができます。オンラインでサポートチケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

目次

第 1 章: Arcserve Backup Enterprise Module の紹介	7
Enterprise Module の紹介.....	8
本書の目的.....	8
第 2 章: Image Option	9
Image Option の紹介.....	9
オプションの動作.....	11
バックアップ方式.....	12
Image Option のインストール.....	12
インストールの前提条件.....	13
Image Option のインストール.....	13
インストール後の作業.....	14
Image Option の使用.....	14
一般的な考慮事項.....	15
Image Option を使用したデータのバックアップおよび回復の制限.....	16
バックアップ ジョブの定義.....	16
バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの定義.....	18
[イメージバックアップ オプション] ダイアログ ボックス.....	19
ジョブ ステータスの表示.....	21
[ジョブ モニタ] ダイアログ ボックス.....	22
リストア方式.....	24
付録 A: トラブルシューティング	27
バックアップ処理が遅い.....	28
Image Option: Drive Cannot be Frozen.....	29
第 3 章: インデックス	31

第 1 章 : Arcserve Backup Enterprise Module の紹介

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Enterprise Module の紹介](#) (P. 8)

[本書の目的](#) (P. 8)

Enterprise Module の紹介

Arcserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバ、およびファイル システム向けの分散的で包括的なストレージ ソリューションです。データベース、ビジネス クリティカルなアプリケーション、およびネットワーク クライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

Arcserve Backup Enterprise Module (Enterprise Module) は、別途インストールされるコンポーネントで、以下のオプションおよび機能が含まれます。

- マルチストリーミング：バックアップデータの 2 つ以上のストリーム。
- バックアップデータの 3 ～ 32 ストリームでのマルチストリーミングと転送が可能な、ディスク ステージング バックアップおよびテープ ステージング バックアップ。

注: Enterprise Module のライセンスを取得しない場合、ディスク ステージングおよびテープ ステージング バックアップ ジョブでは 2 ストリーム、カスタム バックアップ ジョブでは 1 ストリームでのバックアップデータの転送が可能です。「カスタム」ジョブとは、ローテーション スケジュール、GFS (Grandfather-Father-Son) ローテーション、またはメディア プールを利用しないジョブです。詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

- メディア管理機能。
- 物理ディスク/ボリュームの raw バックアップおよびリストア。
- Enterprise Option for VSS Hardware Snap-Shot。
- Image Option。

注: Enterprise Module のライセンスはプライマリまたはスタンドアロン Arcserve Backup サーバに登録されます。

本書の目的

Enterprise Module ユーザ ガイドは、以下のタスクについて説明します。

- Arcserve Backup Image Option を使用したバックアップ ジョブおよびリストア ジョブの実行。

第 2 章 : Image Option

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Image Option の紹介](#) (P. 9)

[Image Option のインストール](#) (P. 12)

[Image Option の使用](#) (P. 14)

Image Option の紹介

Arcserve Backup には、データを高速でバックアップする Image Option が用意されています。このオプションでは、ファイルシステムをバイパスし、ドライブのスナップショットイメージを作成して、ディスクからデータブロックを読み取ります。このオプションは全ドライブを 1 つのファイルとして扱い、ファイルシステムをファイル単位でトラバースする従来の方法に代わるものとして採用されました。

オプションでは、デバイスの非依存性を提供します。メディアデバイス、メディアライブラリ、メディア RAID デバイスなど、Arcserve Backup がサポートするすべてのデバイスに書き込むことができます。

Arcserve Backup Image Option を使用して以下を行うことができます。

- ファイルをスキャンしてパフォーマンスを最適化します。この処理では、ドライブをスキャンして、ドライブ内のファイルに関する情報を使用し、バックアップおよびリストアのパフォーマンスを最適化します。
- 最適化したイメージドライブレベルのバックアップおよびリストア処理を実行します。ドライブレベルでバックアップおよびリストアを行う際、処理を最適化するためにファイルシステムをバイパスします。
- ファイル単位およびドライブ全体のリストアを行います。ファイル単位およびドライブ単位で、データをリストアできます。
- Windows NT File System (NTFS) ファイルシステム、Windows NT File System (NTFS) デデュープリケーションファイルシステム、Resilient File System (ReFS) ファイルシステム、および File Allocation Table (FAT) ファイルシステムをバックアップします。また、NTFS ファイルシステム上の圧縮または暗号化されたファイル、ディレクトリ、ドライブをバックアップできます。
- ファイルの名前、サイズ、日付、およびセキュリティなど、すべてのファイル情報を保持します。

オプションの動作

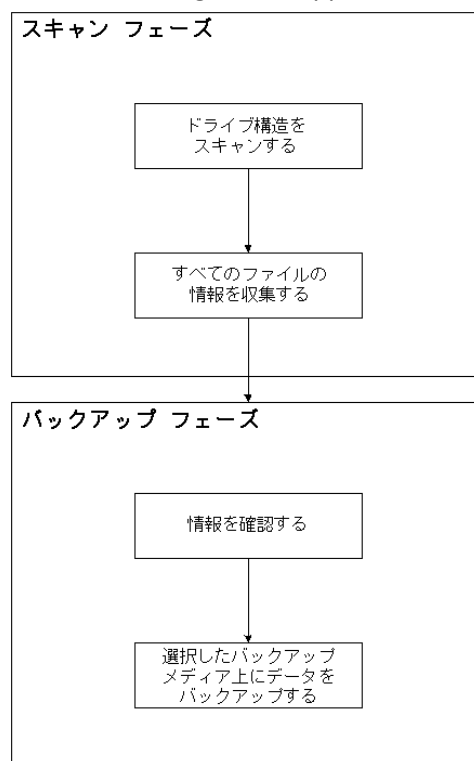
Arcserve Backup Image Option では、バックアップジョブが 2 つの段階で実行されます。

スキャンフェーズ

オプションでは、ドライブ内のすべてのファイルに関する情報が収集されます。収集される情報は、ファイル名、ファイルサイズ、日付、時刻、属性、そのファイルに使用されているクラスタ、ファイルセキュリティ属性、およびその他のバックアップフェーズでのファイルのバックアップに必要な情報です。

FAT/FAT32 であれば、ファイルのスキャンは常に有効です。NTFS、NTFS デデュプリケーションのファイルスキャンは、[イメージバックアップオプション] ダイアログボックスで、ファイルレベルのリストアを有効にするオプションを選択した場合にのみ実行されます。

注: File scanning is not supported on ReFS volumes.



バックアップフェーズ

Arcserve Backup Image Option は、このフェーズでデータをバックアップします。スキャンフェーズで収集された情報は、バックアップエンジンにより調査され、可能なかぎり迅速にバックアップメディアにストリーミングされます。

バックアップ方式

Arcserve Backup Image Option は、特定の指定日時にドライブのスナップショットをとることによってデータをバックアップします。ドライブは特定の指定時刻でフリーズしたように見えますが、通常どおり機能しており、他のアプリケーションから読み取りおよび書き込み要求を送信することができます。この機能は、スナップショット機能として知られており、オプションをインストールすると、自動的にインストールされます。

この方法には以下の利点があります。

- バックアップ処理の開始時に、バックアップ対象ドライブがロックされません。
- バックアップ処理の実行中にアプリケーションがドライブに書き込みをしても、バックアップデータの整合性が常に保たれます。バックアップ実行中にファイルの書き込みが行われても、バックアップ処理は最後まで正常に続行されます。

Image Option のインストール

Image Option をインストールするには、指定された Windows オペレーティングシステムの特長と要件、およびオペレーティングシステムの管理者の責務に精通している必要があります。

インストールの前提条件

オプションをインストールする前に、以下のことを確認してください。

- システム構成が、このオプションのインストールに必要な最小要件を満たしている。

要件の一覧については、Readme ファイルを参照してください。

- このオプションをインストールするコンピュータの管理者権限を持っている。
- 以下のアプリケーションがインストール済みで、正常に動作している。
 - Arcserve Backup
 - Arcserve Backup Enterprise Module

重要: Enterprise Module（このオプションに自動的に含まれる）と Arcserve Backup は、同じコンピュータにインストールする必要があります。このコンピュータは、ローカルまたはリモートのいずれにでも配置できます。

Image Option のインストール

Image Option は、Enterprise Module をインストールする際にローカルにインストールされます。

オプションをインストールして環境設定する方法

1. インストール後の処理中に Enterprise Module 環境設定ユーティリティ (EMConfig.exe) を使用してこのオプションをインストールして設定します。

注: Windows [スタート] メニューから ([スタート] - [すべてのプログラム] - [Arcserve] - [ARCserve Backup] - [Enterprise Module 環境設定]) ExConfig.exe ユーティリティにアクセスすることもできます。

2. インストールおよび設定手順を完了し、プロンプトが表示されたら、コンピュータを再起動します。

インストール後の作業

Arcserve Backup Image Option を使用する前に、以下のタスクを完了します。

注: These tasks do not apply to Windows Server 2012 systems.

- レジストリ キーにドライバがあるかどうかを調べて、Arcserve Backup Image Option のドライバが正常にロードされていることを確認します。レジストリ キーは、たとえば、次の場所にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\hbmnt
```

- 再起動後、Windows のイベント ビューアを調べて、HBMNT5.SYS というドライバが正常にロードされていることを確認します。このドライバは、次の場所にインストールされています。

```
[System Root]\System32\drivers\hbmnt5.sys
```

Image Option の使用

このセクションでは、Arcserve Backup Image Option バックアップ マネージャを使用してバックアップ ジョブを設定し、データをリストアする方法について説明します。

一般的な考慮事項

バックアップジョブおよびリストアジョブを正常に実行するには、以下の点を考慮します。

- Image Option がインストールされているドライブ上に、ある程度の空き領域を確保します。オプションがログと、パフォーマンス向上のための一時ファイルを作成するのに、ドライブに空き容量が必要です。必要となる空き領域は 15～20 MB 程度です。
- Image Option では、スナップショット機能を利用できるように、一時ファイルを空き領域の最も大きいローカルドライブに作成します。この機能を利用するには、上述の 15～20 MB の空き領域以外に、最低 20 MB の空き領域が必要です。
- アクティブなシステムドライブをリストアする際には、そのドライブに少なくとも 50MB の空き領域が必要となります。この領域は、データのバックアップおよびリストア時に作成される追加の一時ファイルやレジストリ ファイルを格納するために使用されます。
- 数百万の NTFS デデュプリケーション最適化ファイルをリストアする場合、Microsoft Windows ではイメージモジュールの仮想アドレス領域の大きさが制限されます。4 GB Tuning (Windows) 機能を使用することにより、32 ビット プログラム用の仮想アドレス領域を増加させることができます。この機能を有効にすると、32 ビット イメージモジュールは 2 GB を超える仮想メモリにアクセスでき、リストアジョブの成功率が高くなります。別の方法として、複数のセットに分けることでリストアするファイル数を減らし、それぞれのセットごとに別のジョブをサブミットすることもできます。

Note: This only applies to the Image Option module when restoring millions of NTFS deduplication optimized files. 仮想アドレス領域の制限を増加させる方法の詳細については、以下のリンクを参照してください。

<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/bb613473%28v=vs.85%29.aspx>

Image Option を使用したデータのバックアップおよび回復の制限

Image Option を使用してデータをバックアップおよび回復する場合、以下の制限を考慮する必要があります。

- このオプションでは、アプリケーションの単位でデータをバックアップおよび回復することはサポートされていません。
- このオプションでは、コンピュータのシステム ボリュームをバックアップおよび回復することはサポートされていません。例：C:¥ ドライブ
- ファイル レベル リストアは ReFS ボリュームに対してサポートされていません。
- システム ボリューム情報フォルダが圧縮または暗号化されている場合、ファイル レベル リストアは NTFS デデュプリケーション ボリュームに対してサポートされません。

バックアップ ジョブの定義

バックアップ マネージャを使用すると、バックアップ ジョブの環境設定およびセットアップができます。イメージバックアップを実行できるのは、Arcserve Backup と Image Option の両方がインストールされているコンピュータのみです。

パーティションをファイル システム デバイスにバックアップできます。ファイル システム デバイスは、同じパーティション上に配置できますが、他のドライブに十分なディスク領域がない場合はバックアップが失敗する可能性があります。異なるデバイス上にファイル システム デバイスを置くことを推奨します。

バックアップを実行する間、スナップショット機能ではドライブをフリーズする必要があります。その後、ドライブが同期化されます。つまり、ドライブへの書き込み待機時間の終了を待機することになります。書き込み非アクティビティ期間が検出されなかった場合、指定時間後に同期処理はタイムアウトになり、フリーズ リクエストは失敗します。非アクティビティ期間とは、ドライブを安全にフリーズできる状態になるまでの間、そのドライブが待機している期間を秒数で表したものです。

`SyncTimeout`、`InactivityPeriod`、および `PreviewFilename` のデフォルトのレジストリ値を変更するには、以下のキーを作成してから、これらのパラメータの値を設定する必要があります。

```
Software\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\TapeEngine\Image
```

`SyncTimeout` はデフォルトで 80 秒、非アクティビティ期間はデフォルトで 3 秒です。

`PreviewFilename` の値およびキーがレジストリに含まれている場合、プレビューファイルの場所はパス名によってわかります。ファイル名が指定されていない場合は、空き領域が最も大きく、バックアップ対象のドライブ上にないボリュームがパス名によって示されます。ドライブが 1 つしかない場合、パス名によってその唯一のドライブが示されます。

`PreviewFilename` で 1 つ以上のサブディレクトリが示されている場合、それらのサブディレクトリは自動的に作成されます。

以下の動作に注意してください。

- ディレクトリの検証は、実行されません。バックアップの実行中に、ディレクトリにアクセスできない場合やディレクトリを作成できない場合（ボリュームが無効であることが原因で）、バックアップジョブは失敗します。
- Arcserve Backup は Windows Server 2012 上のドライバを使用しません。代わりに、Arcserve Backup は、VSS を使用してデバイスのスナップショットを作成します。そのため、このトピックに述べられているレジストリキーの設定は、Windows Server 2012 システムのバックアップには適用できません。

注: Encryption and compression are not supported as a global backup option.

バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの定義

バックアップ マネージャを使用すると、バックアップ ジョブの環境設定およびセットアップができます。

バックアップ ジョブの設定およびセットアップの方法

1. [バックアップ マネージャ] を開いて [ソース] タブを選択します。
バックアップ可能なすべてのソースが左ペインに表示されます。

注: To successfully complete a backup job using the Backup Manager, you must select an entire drive on the computer that you are backing up.

2. バックアップ マネージャの [ソース] タブで、コンピュータ ノードを右クリックし、[Image Option の使用] を選択します。
[イメージバックアップ オプション] ダイアログ ボックスが開きます。
3. ダイアログ ボックスの各フィールドに入力してから、[OK] をクリックします。
4. バックアップ マネージャの [ソース] タブで、ディスク ノードを右クリックし、[Image Option の使用] を選択します。
[イメージバックアップ オプション] ダイアログ ボックスが開きます。
5. 手順 3 ~ 4 を繰り返します。

これで、バックアップ マネージャを使用したバックアップ ジョブの設定とセットアップが完了しました。

バックアップ マネージャによるバックアップの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

詳細情報:

[\[イメージバックアップ オプション\] ダイアログ ボックス \(P. 19\)](#)
[オプションの動作 \(P. 11\)](#)

[イメージ バックアップ オプション] ダイアログ ボックス

[イメージ バックアップ オプション] ダイアログ ボックスでは、バックアップ ジョブを設定できます。

[イメージ バックアップ オプション] ダイアログ ボックスには以下のフィールドがあります。

この設定をマシン オプションよりも優先する

このダイアログ ボックスでの設定が、ノード上に指定されているオプションより優先されることを指定します。

ダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります。

ファイル レベルのリストアを有効にする (NTFS ボリュームのバックアップが減速)

ファイル レベルでリストアを有効にします。ただし、これにより I/O にはディスク上のファイル システム レイアウトを解析してファイル/フォルダ情報を生成する必要があるため、NTFS ボリュームのバックアップ時のプロセスが減速します。

データベースにファイル レコードを追加する

ファイルの詳細をデータベースに追加します。これにより、バックアップセッションでファイルの詳細をデータベースに保存できるため、ファイル レベルのリストアを有効化する際に便利です。これらの詳細をデータベースに追加しない場合、ファイル レベルでリストアする際、リストア前にバックアップセッションとファイルの詳細をマージする必要があります。

以下のフィールドでは、ボリュームのフリーズが失敗した場合の処理を指定できます。

すぐにバックアップを中止する

ボリュームのフリーズに失敗した場合はバックアップ処理を停止します。

バックアップを続行する

ボリュームのフリーズに失敗した場合でもバックアップ処理を続けます。

指定回数まで再試行し、バックアップを中止する

あらかじめ設定された回数までバックアップを継続して試行します。

再試行回数

バックアップ処理の試行回数を指定します。

再試行間隔(分)

バックアップの試行が失敗してから、次の試行までの間隔を分単位で指定します。

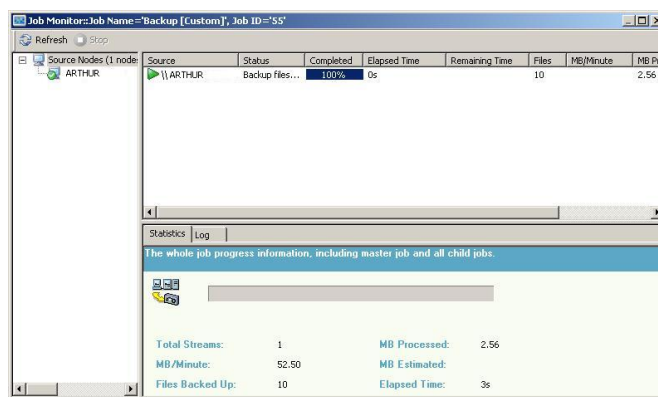
ジョブステータスの表示

[ジョブステータス] ウィンドウから、サブミットしたバックアップジョブのステータスを確認できます。

バックアップジョブのステータスを確認する方法

1. [ジョブキュー] タブ上で、ジョブを選択します。
2. そのジョブを右クリックして、コンテキストメニューから [プロパティ] を選択します。

[ジョブ モニタ] ダイアログ ボックスが表示されます。



[ジョブ モニタ] ダイアログ ボックスに、現在のジョブの属性と、完了した処理のパーセントが表示されます。

詳細情報:

[\[ジョブ モニタ\] ダイアログ ボックス \(P. 22\)](#)

[ジョブ モニタ]ダイアログ ボックス

[ジョブ モニタ] ダイアログ ボックスには、現在のジョブの属性と、完了した処理のパーセントが表示されます。

このダイアログ ボックスには、以下の内容が表示されます。

ジョブ名

バックアップまたはリストアなど、実行中のジョブの種類が表示されます。

ソース

バックアップ ソース コンピュータ名、バックアップおよびリストア ファイルのサイズ、現在バックアップまたはリストア中のドライブが表示されます。

ステータス

現在のジョブのステータスが表示されます。

ファイル

バックアップまたはリストアされるジョブの総数が表示されます。

[統計] ペインには以下の内容が表示されます。

ストリーム総数

バックアップまたはリストア ジョブ内のストリームの総数が表示されます。

MB/分

バックアップまたはリストア ジョブにおいてファイル転送に使用される現在のデータ転送速度が表示されます。

バックアップ済みファイル総数

バックアップ ジョブ内のファイルの総数が表示されます。

処理量 (MB)

現時点で処理が完了しているメガバイト数が表示されます。

推定量 (MB)

現在のバックアップまたはリストア ジョブ処理における推定メガバイト数が表示されます。

経過時間

バックアップまたはリストアを開始してから経過した時間（分および秒）が表示されます。

残り時間

バックアップまたはリストア ジョブの完了に要する推定残り時間（分および秒）が表示されます。

[ログ] タブには以下の内容が表示されます。

エラー

バックアップまたはリストア処理中に発生したエラーが表示されます。

エラーと警告

バックアップまたはリストア処理中に発生したエラーおよび警告が表示されます。

すべて

バックアップまたはリストア ジョブの情報が表示されます。

リストア方式

以下のいずれかの方法を使って、Arcserve Backup Image Option でバックアップしたデータをリストアすることができます。

■ イメージ単位

ドライブ全体を1回の受け渡しでリストアします。リストアジョブを正常に行うには、処理を最初から最後まで完了させる必要があります。途中で処理をキャンセルすると、リストア対象のドライブの整合性が保てず、アクセス不可になることがあります。以下はこの方式の制限事項です。

- イメージ単位のリストアではボリューム全体が対象になります。
[イメージ単位]方式を使用する場合、エージェントによってターゲットボリュームが上書きされるため、リストア対象のドライブが正しく選択されていることを必ず確認してください。
重要: [イメージ単位] オプションによって、ドライブが完全に上書きされます。必ず、上書きしても問題がないことを確認してから実行してください。
- ソースで [イメージ単位] が選択されている場合、デスティネーションで [ファイルを元の場所へリストア] が選択されているときのみ、複数のソースを選択できます。
- [イメージ単位] 方式では、NTFS パーティションは最大 16 KB のクラスタサイズがサポートされており、正常に機能するには複数のドライブまたはパーティションが必要です。ドライブまたはパーティションが1つしか存在しない場合、Image Option は動作しません。
- イメージ単位のリストアでは、どのリストアオプションを選択したかにかかわらず、リストア処理によって常に既存ファイルが上書きされます。

- イメージ単位のリストアでは、ネットワークドライブにリストアすることはできません。同容量以上のローカルハードディスクドライブが必要です。
- イメージ単位でのリストア中は、対象ドライブ上のファイルをすべて閉じておく必要があります。Image Option では、リストア処理を開始する前にドライブをロックしようとします。したがって、開いているファイルがあるとドライブをロックできないため、リストアジョブは失敗します。

■ セッション単位/ツリー単位

個々のファイルやディレクトリをリストアします。ジョブを途中でキャンセルすると、完全にリストアされなかった多くのファイルが対象ドライブに残ってしまう場合があります。

以下のグローバル リストア オプションは、現時点ではサポートされていません。

■ デスティネーション

ディレクトリ構造および同名のファイルに対する処理

■ 操作

レジストリ ファイルおよびイベント ログのリストア

■ ウイルス

ウイルス スキャンを実行する、スキップ、名前の変更、削除

現時点の Arcserve Backup Image Option では、[メディア単位] のリストアはサポートされていません。

ドライブのリストア

Arcserve Backup では、Arcserve Backup Image Option によってバックアップされたドライブ全体をリストアできます。

ドライブのリストア方法

1. リストア マネージャを開きます。
2. [ソース] タブで、ドロップダウン リストの [イメージ単位] オプションを選択します。
3. オプションを使って作成されたバックアップが保存されているドライブを選択します。
4. (オプション) [デスティネーション] タブで、リストアするデスティネーションを選択します。
5. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

リストア処理が開始されるか、実行されるようにスケジュールされません。

個々のファイルのリストア

Arcserve Backup では、Arcserve Backup Image Option によってバックアップされた個々のファイルをリストアできます。

個々のファイルをリストアする方法

1. リストア マネージャを開きます。
2. [ソース] タブで、ドロップダウン リストから [セッション単位] または [ツリー単位] を選択します。
セッションがセッションディレクトリ ツリーに表示されます。
3. リストアするファイル、フォルダ、またはその両方を選択します。

(オプション) [デスティネーション] タブで [ファイルを元の場所へリストア] の横のチェック マークをオフにし、データをリストアする場所を指定します。

ツールバーの [サブミット] をクリックします。

リストア処理が開始されるか、実行されるようにスケジュールされません。

付録 A: トラブルシューティング

この付録では、Enterprise Module オプションで遭遇する可能性のある問題を解決できるように、トラブルシューティング情報を提供します。

バックアップおよびリストア処理の実行中に、ジョブの失敗およびエラーが発生する場合があります。発生する可能性のある問題を調査するには、ジョブステータスマネージャの [アクティビティ ログ] タブを選択します。

アクティビティ ログには、タイムスタンプ付きのイベント情報、および該当するエラーの説明が含まれています。各エラーには、「E11018」のように頭文字「E」で始まるエラー番号が振られています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[バックアップ処理が遅い](#) (P. 28)

[Image Option: Drive Cannot be Frozen](#) (P. 29)

バックアップ処理が遅い

症状

バックアップ処理が非常に遅い。

解決方法

バックアップ処理が遅い場合の一般的な理由および解決策を以下に示します。

- **プロセッサの処理速度が遅い**

古いコンピュータのプロセッサは処理速度が遅く、バックアップおよびリストアにおいて処理されるデータ量に対処できない場合があります。これは、処理速度の遅いプロセッサが搭載された古いコンピュータでは当然のことです。最新のコンピュータを使用している場合は、ハードウェアパフォーマンスを確認し、コンピュータを再起動してください。

- **プロセッサのパフォーマンスが低い**

ご使用のハードウェアパフォーマンスをチェックしてコンピュータを再起動してください。

- **稼働中のアプリケーション**

非常に負荷の大きいアプリケーションを実行している可能性があります。バックアップおよびリストアプロセスを開始する前に、アプリケーションをすべて閉じてください。

Image Option:Drive Cannot be Frozen

症状

バックアップ処理の際にドライブをフリーズできない。

注: This problem is specific to Image Option.

解決方法

ドライブで何らかの処理が行われている場合、Arcserve Backup Image Option でドライブをフリーズできないことがあります。バックアップの際にドライブをフリーズできないと、以下のようなことが起こります。

- ドライブをフリーズすることができず、[ボリュームのフリーズ失敗時のアクション] で [バックアップを続行する] オプションが選択されている場合、Image Option は排他アクセスできるようドライブをロックしようとします。
- ドライブがロックされずにデータに変更が加えられた場合、バックアップされるデータが不整合となり使用できなくなる可能性があります。

ドライブがロックできない理由には、以下のようなものがあります。

- エクスプローラで対象ドライブが展開されている場合。ドライブが展開されていないことを確認してください。
- 対象ドライブ名がカレント ドライブになっている MS-DOS コマンドプロンプトが開かれている場合ドライブ文字に関連付けられた MS-DOS コマンドプロンプトのダイアログ ボックスを閉じます。
- 対象ドライブにあるファイルが他のアプリケーションによって開かれている場合バックアップ対象のドライブ上のファイルを開く可能性のあるアプリケーションを、すべて閉じてください。

第3章：インデックス
